

落合川と南沢湧水群



東久留米・水の回廊

清流のきらめき

瑞々しい緑の輝き

水辺に集う生き物たちの営み

水と戯れる子どもたちの笑顔

水はすべての生命の源

ここには守り続けたい、大切な「水の回廊」がある



刊行にあたって

平成20年6月「落合川と南沢湧水群」が、環境省による「平成の名水百選」に、東京都で唯一、選定されました。

市内でも有数の清流として知られる「落合川」。そして、市の中央に位置する落合川流域の南沢地域では、1日に約1万トン、下流部の下谷橋付近では1日に約5万トンの流量があるといわれます。

今回の選定では、清澄な水や水環境というだけでなく、地域の生活にとけ込み、地域住民が主体的かつ、持続的に保全活動を行ってきたことが重視されました。

この受賞は、ひとえに、住民と行政の地道でたゆまない努力の成果と言えるでしょう。今までと変わらず、これからもこの豊かな自然を守り遺したいという強い願いを込めて、この冊子を刊行します。



12

市内案内マップ



11

東久留米ごよみ



10

わがまち自慢の特産品



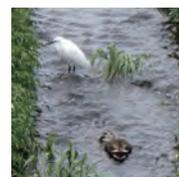
8

発見！ 私たちのまち・東久留米
のんびり気ままに、
おもしろスポット発見！



6

清流の動植物



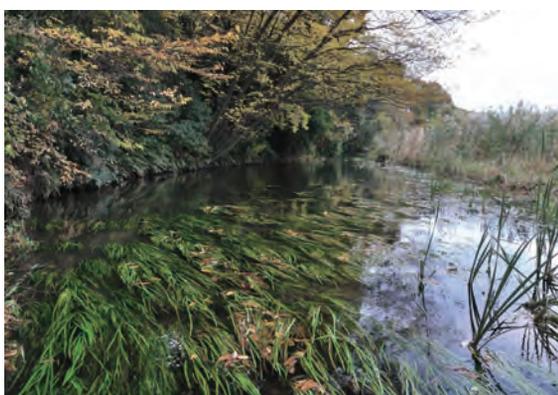
2

「受賞の喜び（市民の声より）」
水と生き物たちのために、
私たちができること

水とみどり

未来に遺したい

武蔵野の自然を色濃く残し、貴重な清流と湧水群を持つ東久留米市。一時は都市化が進んだことで、田園や緑が急速に姿を消し、水が汚れたこともありました。しかし、今、雑木林は保全され、水は透明度を取り戻しています。今回、これまで落合川や南沢湧水群の自然に親しみ、その保護や再生に努めてきた人々に、お話をうかがうことができました。



南沢氷川神社 宮司 栗原健人

【主な活動】地域の自然保護活動への協力など

【選定を受けて】南沢氷川神社は、落合川の源流部、南沢緑地保全地域の湧水地にあり、境内の前後を川に囲まれた高台に鎮座しています。当社の創建時期は明らかではありませんが、古来より水とのかかわりを大切にしながら歴史を重ねてきました。近年では、市民団体による「ホタルの夕べ」を境内で開催するなど、周囲の環境保全にご協力しています。かつては今よりも深い鎮守の森がありましたが、開発によって雑木林は減少。また、一時は川も汚れてしまった時代がありました。しかし、今では、市民や行政の努力によって水の浄化も進み、緑の再生も図られています。

住宅地が迫った場所に、これほどの水源の森があることは素晴らしいことであり、その保全に努めてきた市民をはじめ多くの人の意識の高さが、今回の選定につながったのだと思います。自然は、人の手を加えずそのまま残すことが一番です。今後も市民の皆さんには「自分たちの森」という気持ちをぜひお持ちいただき、一緒に水源の森を守っていきたくと考えています。

「落合川と南沢湧水群」が平成の名水百選に選ばれたことを一番喜んだのは、これまで川や湧水地の環境を守り、水とみどりの再生に努めてきた市民の皆さんでした。ふるさとの名水への並々ならぬ思い、今後の活動に向けての抱負について、落合川と南沢湧水群に縁の深い、地元の自然系市民団体、神社、学校、保育園の皆さんからコメントをいただきました。

受賞の喜び（市民の声より）
水と生き物たちのために、
私たちができること

東久留米自然ふれあいボランティア

平成9年発足

【主な活動】古損木の伐採・フェンスの新設、補修・落ち葉かき・植栽ほか
【選定を受けて】私たちは、黒目川、落合川流域の緑地保全地域10カ所の管理作業を、東京都環境局や市の環境政策課と連絡を密にしながら進めています。また、企業の自然環境保全活動の指導や森に親しむイベントなどの実施も行っています。おかげさまで、平成20年には東京都の表彰を受けました。東久留米の水と緑の景観を後世に伝えるには、あるべき姿を考え、英知と努力によって市民全体で守っていく必要があると思います。

落合川いこいの水辺市民ボランティア

平成10年発足

【主な活動】落合川いこいの水辺周辺を中心とした、清掃や植物の維持・管理
【選定を受けて】平成9年、「落合川いこいの水辺」が完成し、一段と市民の目が川に向けられるようになりました。完成当初から、市民自らの手でこの場所を守り育ててきた活動が、今回の選定で認められたような気がして、とてもうれしいです。これからも、多くの団体や市民の方々と協力しながら、地道に末永く活動を続けていきたいと思っています。



東久留米・ホタルを呼びもどす会

昭和61年発足

【主な活動】水質調査・清掃などによるホタルの棲める環境づくり
【選定を受けて】永年に亘る会の活動が認められた気がして大きな感動です。当初の願いは、南沢に限らず市内の川筋で夏の夜、ホタルが飛び交うさまを想い描くことでした。その為に協力を惜しまない人も増えました。しかし、ホタルの棲める環境は、時として人間生活の利便性に押しやられてしまいます。綺麗な水を必要とする生きものですが、そこに育つ植物や貝類、小動物との共生も不可欠です。東久留米が“ホタルの里”と呼べる日が来ると嬉しいです。

東久留米ほとけどじょうを守る会

平成3年発足

【主な活動】自然を活かしたまちづくりを推進する活動
【選定を受けて】先人たちから受け継いだ「落合川と南沢湧水群」は、永遠に後世に伝えるべき東久留米の宝物です。人の生活のすぐ隣りで、さまざまな鳥が舞い、魚がたわむれ、水草がゆらぐ清流を誇りに思います。これからも市民みんなで、こうした環境を守り育てていきたいと思います。

東久留米バードウォッチングの会(HBWS)

平成6年発足

【主な活動】月1～2回探鳥会を実施・地域団体が行う探鳥会に講師を派遣して支援
【選定を受けて】山野や水辺で種子、昆虫、小魚などを食べながら暮らす野鳥は、自然環境のパロメータともいえる存在です。市内では、日本で見られる野鳥の約20%に当たる100種以上が記録されていますが、環境悪化によりその数は減少しています。今回の選定を機に、多くの野鳥たちと共生できる「水と緑と生き物」にあふれたまちづくりに向けて一層の努力をしていきたいと思います。

Column

東久留米の歴史

市内からは縄文時代の遺跡など100カ所以上もの原始時代の遺跡が発見され、古くから水の近くで人々が暮らしていたことがわかっています。江戸時代には、江戸の食糧供給地としての役割を担うようになりました。明治維新後、明治2年に品川県、同5年に神奈川県に編入。明治22年に久留米村が誕生し、同26年東京府に編入されました。大正4年に池袋―飯能間に武蔵野鉄道（現在の西武池袋線）が開通したことで発展。第2次大戦後は人口が急増し、昭和31年には町制が施行されました。その後、市内に大型団地が次々と建設され、昭和45年には日本で最も人口の多い町となりました。そして、昭和45年に東京都で22番目の市として「東久留米市」が誕生しました。



東久留米市教育委員会発行「明治時代各村地引絵図」より

南沢水辺公園のなかまたち

平成17年発足

【主な活動】植栽管理・武蔵野の風景回復の自然公園づくり

【選定を受けて】南沢水辺公園は今回の選定域の中心に位置しており、改めて自然公園としての意味を痛感しています。一度は住宅が建ち、その後、川の直線化工事も計画された小さな土地ですが、かつては隣接する神社の鎮守の森でした。その景観を取り戻そうという私たちの活動は始まったばかりですが、20年後、30年後に、人も鳥も昆虫も、そして落合川の魚たちも、共に生きる空間になってほしいものです。



東久留米水辺の生きもの研究会

平成19年発足

【主な活動】市内の河川に集まる水辺の生きものの継続的な調査と保護活動

【選定を受けて】今回の選定理由の一つが、市民による定期的な川の清掃活動や動植物の保護活動にあったことは、大きな喜びでした。毎月行っている川のごみ拾いや生き物調査が認められたと思うと、大変心強い気持ちになります。これを機に、まだまだ残されている雑排水の流入をなくし、本当に市民の財産として愛せる落合川になるよう、市民の皆さんと一緒に努力していきたいと思えます。



学校法人 自由学園

大正10年創立

【主な活動】落合川と支流・立野川の調査・研究・保全活動・全国一斉河川調査への協力

【選定を受けて】自然の宝庫だった南沢に本学園が移転してきたのは、昭和9年のことでした。以来、この地の水と緑を守りながら、自然を教育に積極的に生かしてきました。自由学園学生寮が隣接する落合川や、学園内を流れる立野川をもとの「水清き」川にすることは、かつての私たちの願いでした。今、水質は改善しましたが、高等科1年の男子生徒が、毎日、立野川の流量・地下水位などをチェック。また、武蔵野の景観を保つよう川岸の草刈なども行い、その環境維持に努めています。毎年、全国一斉河川調査に参加し、落合川や黒目川をはじめ市内の各ポイントの水質検査をしています。現在、落合川は市民や行政が協力しながら保全を行っています。活動の担い手である若い人たちへの環境教育が、今後ますます大切になってきます。地域の皆さまと協力し、教育・研究に取り組んでいきたいと考えています。今回の選定は、「美しい水清きふるさと」をつくり発展させてゆきたいという願いを市民の共通認識として持つきっかけになる、素晴らしいことだと思います。

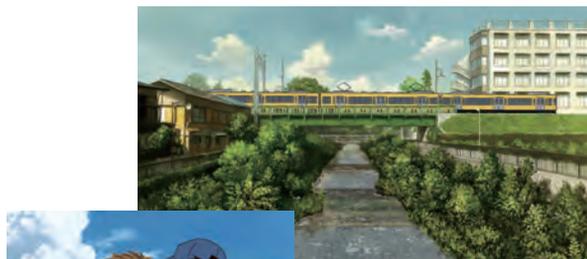
Column

市が舞台の映画『河童のクゥと夏休み』

平成19年夏に公開されたアニメーション映画『河童のクゥと夏休み』は、東久留米市が舞台となっています。

(夏休みのある日、小学生の上原康一が黒目川で拾った石から河童の子供が現れる。康一はこの河童を「クゥ」と名づけ、密かに一緒に暮らし始めるが、やがてクゥの存在が世間に知られ騒動に……。)

河童と少年の友情、周囲の人間模様が、人間社会への警鐘も込めて描かれます。東久留米を舞台としたのは、監督の原恵一さんが、東久留米に住む原作者の木暮正夫さん(完成直前に逝去)を訪れた際、当地の風景を気に入ったことから。作中には、黒目川や南沢湧水地、小山台遺跡公園などがリアルな描写で登場します。



(C) 2007 木暮正夫 / 「河童のクゥと夏休み」製作委員会



P1～5の写真提供：小松原昌男氏



写真家・小松原昌男氏

〈略歴〉

- 1947年 東京都豊島区生まれ
- 1970年 (株)サン光芸社に入社
- 1982年 東久留米市に移住
この頃より市内の写真を撮り始める
- 1985年 東久留米・ホテルを呼びもどす会などの自然ボランティアに入りフィールドを体験しつつ、自然の写真を撮りつづける
- 1990年 ホテルの会の総会、ホテルまつり等の催事に写真を展示
- 2009年 平成の名水百選に選定された記念のシンポジウムで、写真展を開催



東久留米・川クラブ

平成20年発足

【主な活動】落合川源流域の清掃・整備および汚濁・雑排水の流入阻止活動

【選定を受けて】今回の選定は、地域住民の方々や関係者、川関連団体の皆さんの長年にわたる地道な努力のおかげであると思います。川環境の悪化が叫ばれる現在、このような希少な湧水と川が、都市近郊の東久留米市内に存在することは、素晴らしいことです。ここには多くの動植物が集ってきていることを多くの人に知ってもらい、川環境への意識が高まっていくことを願っています。

東久留米市立しんかわ保育園

昭和50年創立

【主な活動】落合川などでの園児と自然とのふれあい

【選定を受けて】しんかわ保育園は落合川に臨む場所にあり、遊歩道が整備されています。遊歩道は子どもたちの散歩コースで、川を泳いでいるカモやコイを見て楽しんでいます。夏になると「いこいの水辺」まで行き、川の流れに乗って泳いだり、ザリガニ釣りをしたり、川は子どもたちの友だちです。釣ってきたザリガニを飼育し、たくさんの赤ちゃんザリガニが生まれた時は、みんな大喜びでした。

豊かな自然を身近な場所で子どもたちに体験させられることは、大変ありがたいことだと感じています。

落合川では、市民の皆さんなどにより環境保全のためのさまざまな活動が行われていますが、この選定によって川の環境を未来の子どもたちへ受け継いでいくためのさらに大きな推進力が生まれたように思います。

(※団体の掲載は発足順)

Column

環境シンポジウム「平成の名水百選」記念イベント

平成の名水百選選定を記念した環境シンポジウムが、平成21年1月24日、市民プラザで開催されました。調査検討委員会委員の小堀洋美教授（武蔵工業大学）による記念講演や、落合川湧水調査報告などが行われ、さらに市役所1階屋内ひろばでは、落合川や湧水にかかわる諸団体がパネル展示を行いました。

「東京の名湧水57選」にも選定されています

平成の名水百選に選定される以前から、東久留米の湧水は注目を集めていました。平成15年に東京都が、湧水の保護と回復を図るために、水量、水質、その由来、景観などに優れた湧水等57カ所を「東京の名湧水」として選定。その中で、南沢緑地、竹林公園、柳窪天神社の3カ所が選ばれています。



柳窪天神社（柳窪 4-15-16）

【ミゾソバ】

水辺に群生する1年草。別名をウシノヒタイと
いうように、葉の基部が左右に張り出し、牛の
額に似ています。花の色は、白色から紅紫色
まであります。花期は7月～10月。



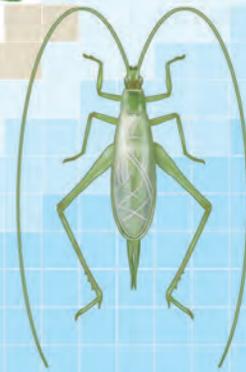
【オニヤンマ】

日本に産するトンボの仲間では最大種で特
に有名です。きまった場所を行ったり来たり
する習性があります。



【カブトムシ】

大型の甲虫で、オスは発達した角が特徴。
クヌギ、コナラなどの林に生息し、これらの
樹液を餌にしています。



【カンタン】

夏から秋にかけて草むらで見られるバッタ
の仲間、薄黄緑色をしています。ルルル
ルルと美しい声で鳴きます。



【コクワガタ】

日本でよく見られるクワガタの一種で、体
長は最大5cmほど。クヌギ、コナラなど広
葉樹の樹液に集まります。



【タカハヤ】

アブラハヤに比べると尾びれの付け根が太く、目が小さ
いのが特徴です。太平洋側では本来、静岡県以西が生
息域でしたが、近年関東でも見られるようになりました。



【カルガモ】

田園時代から、一年中いつでも東久留米で
見ることができる留鳥です。黒いくちばしの
先端部がオレンジがかった黄色であることが
特徴です。夜行性で、夜になると小さい群れ
で水面から飛び立ちます。



【ホトケドジョウ】

体はずんぐりしており、口ヒゲは4対(8本)
あり、お腹が赤いのが特徴。地元では“お
ばばドジョウ”とも呼ばれています。



【ジュズカケハゼ】

川の中～下流域などの川底を生息場所
とする淡水性のハゼ。関東地方のジュズ
カケハゼは、絶滅が危惧されています。



【オナガガモ^{オス}】

体長はカルガモよりやや小さく、冬鳥として国
外から飛来し、3月末まで落合川や黒目川で
暮らします。カルガモと同様に夜行性です。

清流の動植物

落合川や南沢湧水群には、たくさんの種類の動植物の営みがあります。それらが快適に暮らせる環境を、将来にわたって維持していく必要があります。

イラスト：まきのこうじ



【ハクセキレイ】

体長はスズメ位で、落合川や黒目川の水辺で一年中見ることができます。チュチュンチュンと澄んだ声を出して飛びます。



【カワセミ】

光沢のある青緑色の背中とオレンジ色の腹部が美しい鳥。水辺の枝にとまり、魚を見つけると一気にダイビングして捕まえます。



【オナガ】

長い尾っぽに水色の翼、黒い帽子が特徴です。ゲイイツ・ゲイイツと鳴きます。市の鳥にも選ばれています。



【セリ】

古くから食用とされ、春の七草の一つにもなっている多年草です。市内の川沿いでよく見られます。花期は7月～8月。

【モクズガニ】

甲羅の幅7～8cmで、海や河口付近で生まれ成長するにしたがって川を遡上（そじょう）し、秋になると繁殖のため川を下ります。



【ナガエミクリ】

絶滅が危惧される水草で、水中から水面上に細長い葉を伸ばすほか、流れの中を漂う姿も見られます。



【アブラハヤ】

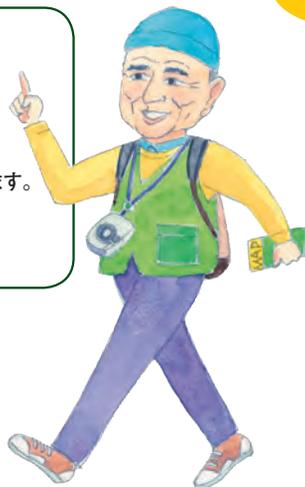
体表が油を塗ったようにぬるぬるしているところから、その名があります。地元では、“ばかっぱや”とも呼ばれています。

発見!

私たちのまち・東久留米

のんびり気ままに、 おもしろスポット発見! こぼれた見どころ

東久留米に住んで、はや30年近く、
地元風景を愛してやまないデモ だいくと申します。
日ごろからカメラ片手に歩くのが大好きで、
風の向くまま気の向くまま市内をぶらりぶらり。
そんな私が、東久留米の“隠れた名所”をご案内します。
え、隠れ過ぎた名所じゃないかって?
ともかく一緒に、発見と和みの散策へ出発です!



イラスト：熊田司郎



ひよつとして現役?
昔ながらの火の見櫓
〔柳窪4丁目・南沢1丁目〕

東久留米は、川のまち。ならばその源流から始めよう、ということ。市の西部、黒目川が源を発する柳窪のあたりへぶらりと出かけてみました。第十小学校を中心に歩いていると、黒目川が伏流する場所に出ました。ほく、源流部も程近いのだなと実感。しかし、このあたりの櫓は見事であります。ふと見上げると、そこに古い火の見櫓が。鉄骨製で、わりとモダンなデザインだけど、クラシカルな半鐘はしっかりと下がっていますね。ところでこの火の見櫓、まだ現役なのでしょうか?

帰り道の黒目川、
突如出現した生き物は!?
〔野火止3丁目〕

中学校の歴史の時間に習った野火止用水を見てから、黒目川を下流に向けて歩いてみました。小学校の給食室からなにやらおいしそうな匂いが。今日の献立はシチューかな、そういえばお腹が減ったなあ……などと考えていたら、護岸の石垣から覗く雨水配水管に何やら動く生物を発見! すぐに隠れてしまったので種類はわからなかったけれど、明らかに野生の小動物でした。川べりを行く私のためにお出ましになった、送りオオカミならぬ見送りタヌキ?

小さな社寺やお地蔵さんが
散策のアクセント

〔小山2丁目・神宝町2丁目・本町4丁目〕

神社やお寺、野仏といったものは、散策の重要なアクセントになってくれます。こぢんまりとした御嶽神社(小山2丁目)、元禄8年に建立されたという地藏菩薩像(神宝町2丁目)などは私のお気に入りです。また、特にオススメなのが、本町4丁目の多聞寺の前の道沿いにいらっしやる3体のお地蔵さんたち。静かにたたずみながら、通



デモ だいくさん

昭和56年から市内在住。趣味の散策をテーマに、市民公募による編集委員が作る、東久留米ホームページの「市民参加のページ」に応募し、採用される。市内全域を約6ヵ月かけてくまなく歩いた、自称「東久留米の伊能忠敬」。訪ね歩いて、出会った町並みや自然、文化財などについて感じたままを、「デモ だいく」のハンドルネームで「東久留米・武拾参町ぶらり旅」としてまとめている。



東側は西武池袋線の線路、南側は黒目川というあたり。子の神社から小山台遺跡公園を経て、隣接する緑地へ出ると、とある木製の道具を発見。縄文時代の遺跡の一部？ いえいえ、ジャンプ力や瞬発力といった体力、身体能力を年齢層に合わせてチェックできる、発想に創意工夫のある遊具でした。遺跡公園にはラジオ体操のグループがいましたが、アレレレ、ここには人けがないぞ。せっかくの道具だから、みんな積極的に使いましょね。

緑の中でのくびのび 体力測定はいかが？

（小山1丁目）



り過ぎる人を見守ってくれています。きれいに手入れをし、花を上げる方の心根の美しさがしのばれます。

中学校の屋上に 天体観測ドームを見つけた

（上の原2丁目）

市の北東端あたりのランドマークの一つが、国土交通省東京航空交通管制部の高い電波塔です。航空機の安全運航のためのさまざまな発信が、この塔を通じてやりとりされているんですね。そして、すぐ近くの東中学校の建物には、天体観測ドームが。公立の中学校でこの手の施設は珍しいのではないのでしょうか。調べたら、このドーム、昭和41年の校舎増築の際に同時に誕生したものと。同校では、天文部もすっかり活動中のようです。将来の天文学者や宇宙パイロットが育つといいなあ……。夜空の銀河に思いをはせる上の原2丁目界隈なのでした。



開運散歩なら、これ！ 東久留米・七福神めぐり

東久留米に七福神がいるのをご存知ですか？ 市内の5つのお寺に7体の神様がまつられています。これらをめぐる七福神めぐりが、ただ今人気。黒目川と落合川の2つの清流や雑木林、湧き水など、豊かな自然とのふれあいも楽しめます。3時間ほどのコースを歩けば、健康づくりや気分転換になるだけでなく、ご利益があるかもしれません。

浄牧院（大黒天尊）→宝泉寺（弁財天）→多聞寺（毘沙門天）→米津寺（布袋尊）→大圓寺（恵比寿尊・福祿寿尊・寿老尊）



わがまち自慢の

特産品

幻の小麦 柳久保小麦



撮影 / 東久留米市

きれいな水と豊かな土壌に恵まれた東久留米市では、大都市近郊という立地を生かした野菜栽培や花き栽培が盛んです。近年、食の安全や伝統食が注目される中で、小麦をはじめ新たな東久留米ブランドの特産品が生まれています。

小麦の品種「柳久保」は、寛永4(1851)年、現在の東久留米市柳窪の奥住又右衛門が、旅先から持ち帰った一本の穂から優良な小麦を生み出したと伝えられています。この小麦は評判となり、「又右衛門種」あるいは「柳久保小麦」と呼ばれ、東京や神奈川などへも広まってきました。良質の粉は、うどん用として特に人気があり、また麦の草丈が長いので、麦わらが家屋のわら屋根に盛んに利用されました。しかし、収穫量が少ないこと、倒れやすいことなどから、いつしか消滅。昭和の終りに又右衛門の子孫が、農水省生物資源研究所に保存されていた種を譲り受けて、幻の小麦の栽培を復活させました。

近年、この小麦のブランド化を目指し、行政、JA、生産者、手打ちうどんの会、食改善リーダー、加工業者などが協力して、栽培や商品開発が進められるようになりました。柳久保小麦は、粘りが強く、香りや風味に優れているのが特

長。伝統的なうどんやま

んじゅうのほか、かりんとう、パンなどに利用され、東久留米市を代表する特産品として好評を集めています。



特産品の取り扱い店

- 柳久保まんじゅう
- 和菓子処 いせや.....電話 042-471-0302
- むさし梅月.....電話 042-477-1008
- パン
- ブチ・フル.....電話 042-474-0139
- 柳久保かりんとう
- 中谷製菓.....電話 042-471-5321
- むさし梅月.....電話 042-477-1008
- テラス・シャモア.....電話 042-472-0717
- Yショップ・エチゴヤ.....電話 042-473-0952
- やまも酒店.....電話 042-471-7060
- くらしの里おの.....電話 042-471-1353
- 東久留米新鮮館.....電話 042-475-0022
- (JA東京みらい東久留米支店)
- Pure House たけうち.....電話 042-471-0007
- 田嶋商店.....電話 042-473-3905
- 和菓子処 いせや.....電話 042-471-0302
- 長崎屋.....電話 042-471-0858
- 酒の高村屋.....電話 042-473-2013



柳久保小麦
他の品種より草丈が長いのが特徴です。

- 梅ワイン「梅うふふ」
- リカーズ港屋.....電話 042-471-2751
- 足立屋酒店.....電話 042-471-5201
- ぬく井酒店.....電話 042-473-3139
- 細田酒店.....電話 042-471-1448
- 野島酒店.....電話 042-471-7067
- Pure House たけうち.....電話 042-471-0007
- マイマートしみず.....電話 042-471-1438
- くらしの里おの.....電話 042-471-1353
- Yショップ・エチゴヤ.....電話 042-473-0952
- 長崎屋.....電話 042-471-0858
- 東久留米新鮮館.....電話 042-475-0022
- (JA東京みらい東久留米支店)
- 海老沢商店.....電話 042-471-0052
- 石森酒店.....電話 042-473-3612
- やまも酒店.....電話 042-471-7060
- 田嶋商店.....電話 042-473-3905
- 酒の高村屋.....電話 042-473-2013
- セブンイレブン東久留米.....電話 042-477-6182
- 八幡町三丁目店



東久留米からの梅便り
梅ワイン「梅うふふ」
市内産の「白加賀」という品種の梅100%を使ったワインで、甘口、辛口、微発泡の3種類があります。

東久留米 ごよみ



市民つなひき大会



お花見



環境フェスティバル



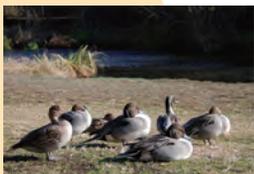
川遊び



南沢獅子舞（平成29年の様子）



総合防災訓練



水辺のカモ飛来

1月

- 消防出初め式
- 東久留米七福神めぐり
市内のお寺に点在する七福神をめぐって、開運祈願。
- 成人式典
- 少年少女駅伝大会

2月

- 市民つなひき大会

3月

- 西洋カラシナ開花
菜の花の仲間、西洋カラシナの黄色い花が落合川の岸を彩ります。

4月

- お花見
- 春の祭典
市文化協会の各団体の皆さんが日ごろの成果を発表します。

5月

- 子どもまつり
遊びやゲーム、手作りコーナーなど、楽しさいっぱいのイベントです。

6月

- 環境フェスティバル

7月

- 川遊び
落合川いこいの水辺や南沢の湧水地が、子どもたちの格好の遊び場に。
- 社会を明るくする市民の集い

8月

- 駅前夏祭り
- 滝山・前沢みんなの夏祭り
阿波踊りをはじめ盛りだくさんのイベントで、大いににぎわいます。
- お日さまサンサンフェスティバル
障害を持った子どもたちとボランティアの方々の楽しい一日。

9月

- いきいき長寿大会

10月

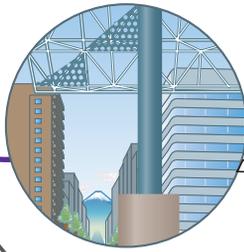
- 市制施行記念日（1日）
- 市民文化祭
市民の皆さんが文化・芸術分野の活動成果を披露します。
- ファミリー・スポーツ・フェスティバル
各種競技や体力テストなど、スポーツの秋を満喫。
- 南沢獅子舞（4年ごと）
江戸期から南沢に伝わる郷土芸能で、4年に一度、五穀豊穡と悪疫退散を祈願して演じられます。
- 総合防災訓練

11月

- 市民みんなのまつり
農・商工業の展示即売や、さまざまなイベントが2日間にわたって開催されます。

12月

- 消費生活展
- 水辺のカモ飛来
シベリアからの冬の使者カモが落合川などに遊ぶ姿が見られます。
- ダイヤモンド富士
冬至のころ「富士見テラス」から見られます。



「関東の富士見百景」の一つ
富士見テラスから見る富士山



自由学園 7

学園内の建造物のうち、5つが「東京都選定歴史的建造物」に選定されています。



竹林公園 8

約2000本の孟宗竹に囲まれ、園内は静寂に包まれる。「新東京百景」のひとつです。



落合川いこいの水辺 9

落合川沿いの水辺。水と直接触れあえるようにと、護岸されたフェンスを撤去したのは全国初の試みです。



※学園の建物・キャンパスの公開日程は、学園ホームページ等でお知らせしています。

Higashi-kurume

市内案内マップ

市内には水と緑だけでなく、名所や名跡も点在しています。

歩いてよし、サイクリングよしの手ごろな大きさは、お散歩がてらに巡るには最高の環境。お天気の良い日には、ぶらり旅に出かけてみませんか。



0 500 1000m

小山台遺跡公園 ①

縄文土器を始め、住居跡などが発見された小山台遺跡。住居跡の復元もされています。



下里本邑遺跡公園 ②

旧石器時代から、平安時代までの生活跡が発見された下里本邑遺跡。出土した土器や石器を展示した遺跡館もあります。



しんやま親水広場 ③

黒目川に架かる柳橋から宮裏橋間に広がる広場。誰でも気軽に水と触れあえる、憩いの空間です。



白山公園 ④

公園の周りを桜並木が囲み、お花見の時期には多くの市民で賑わいます。



柳窪天神社 ⑤

柳窪天神社のお囃子は市の無形民俗文化財に指定されている。湧水も見られます。



村野家住宅 (国登録文化財) ⑩

江戸時代の茅葺屋根をもつ主屋や土蔵、明治期の離れや薬医門などの歴史的建造物が残り、外から門や屋敷林が見られます。個人住宅のため、普段は公開していません。



さいかち窪 ⑥

黒目川の源流で、雑木林に囲まれた窪地。数年に一度、湧水がみられるとして「幻の泉」ともよばれます。



市民憲章

さわやかな空気と、水と緑に恵まれた東久留米。そこには古くから、武蔵野の自然と人間の営みがありました。

わたくしたちは、この先人の歩みを大切にし、未来へつながるふるさととしてここに新しい文化を育て、よりよいまちをつくるため、市民憲章を定めます。

わたくしたちは、

自然を生かし、清潔で調和のとれたまちをつくります。

お互いを重んじ、心にくばり、誰もが明るく暮らせるまちをつくります。

子どもたちがいきいきと育ち、おとしよりも生きがいのあるまちをつくります。

自由を愛し、勇気を持って秩序あるまちをつくります。

知恵をだしあい、進んでまちづくりに参加し、住みよい東久留米をつくります。

(昭和 55 年 10 月 1 日制定)



市の木
イチョウ



市の花
ツツジ



市の鳥
オナガ

湧水・清流保全都市宣言

私たちのまち東久留米市には、黒目川・落合川・立野川を代表とする、湧き水による幾筋もの川があります。縄文の時代より人々はこの清き水に集い、やがてむらやまちがつくられ、暮らしが営まれてきました。

時は移り、都市化と生活様式の変化により、みどりや湧き水が減り、川が汚れた時期もありました。しかし、人々の努力によりその流れを絶やすことなく、清らかさを取り戻した湧き水の流れは清流に集まる生き物を育み、市民に潤いと安らぎを与え、とともにまちの象徴にもなっています。

東京で唯一、「平成の名水百選」に選ばれた川が流れる東久留米市で暮らす私たちは、まちを潤す湧水と清流を誇りとしています。私たちは、このすばらしい環境を次の世代によりよいかたちで引き継いでいくために、樹林や農地のみどりなどが、地下水を豊かにし、湧き水と多くの生き物の命を育てている仕組みを大切にして、今後も市民・事業者・行政が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいくことを宣言します。

2011年（平成23年）6月11日 東久留米市



東久留米市役所 東京都東久留米市本町 3-3-1 042-470-7777

<http://www.city.higashikurume.lg.jp/>

2009年3月発行

2017年10月改訂